

ホルムズ海峡のタンカー攻撃が 日本に与える影響とは？

イランの核合意をめぐるアメリカとイランの対立は中東情勢の混乱を招き、

世界経済にも大きな影響を与えています。キャノングローバル研究所では「20XX年電力危機」という
中東湾岸での政治危機が日本の電力供給に及ぼすさまざまな影響のシミュレーションを実施しています。

昨年は日本のエネルギー供給の生命線とも言えるホルムズ海峡でのタンカー攻撃事件が起こり、今、まさに
「20XX年電力危機」が現実のものとして起ころうとしています。本講演では、「20XX年電力危機」のシミュレーションを
発表された宮家邦彦氏に日本のエネルギー外交戦略や、日本がとるべき対応について分かりやすくお話していただきます。

日時

2020年2月26日(水)16:00～17:30

(開場15:30)

会場

大阪大学 豊中キャンパス
理学研究科 J棟2F 南部陽一郎ホール
対象：学生、全教職員及び一般（先着100名）

講師

宮家 邦彦 氏

キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

1953年生まれ、1978年東京大学法学部卒業、同年外務省入省、

日米安全保障条約課長、在イラク大使館公使、

中東アフリカ局参事官などを歴任、

2005年外務省退職後外交政策研究所代表に就任、

立命館大学客員教授、キャノングローバル戦略研究所研究主幹。

お申込み

下記リンク、またはQRコードから必要事項を記入してお申込みください。

※ご応募で得た個人情報は本セミナー運営以外には使用しません

WEB申込はコチラ！



<https://www.jaero.or.jp/seminar/>



スマホから簡単申込み！

QRコードから
参加申込ができます

主催：大阪大学 放射線科学基盤機構

共催：(一財)日本原子力文化財団

セミナーに関するお問合せはコチラ(☎03-6891-1572)